

# 慢性疾患児童の運動指導・生活管理指針

小林昭夫

## 要約：

小児慢性疾患を管理する上で医学的治療と相まって運動指導・生活管理は重要で、いわば車の両輪の役割を果たしている。しかるに、これまでの治療では医学的治療のみに重点が置かれ、運動指導・生活管理は比較的等閑視されてきた感がつよい。そこで、小児慢性疾患の運動指導・生活管理指針を作成することは大きな意味を持つ。慢性疾患児童の運動指導・生活管理は医療に携わる医師・看護婦をはじめとし、園医・校医、幼稚園・学校の担任、養護教員、栄養士等患児と接触をもつ広い範囲の人たちが熟知している必要がある。この点から、これまでに集積された情報の収集整理、情報の欠落した疾患に対する新たなデータの作成を行ない、上述の慢性疾患児童と接触をもつ広範囲の人たち、とりわけ園医・校医および養護教員に対する指針を作成したい。本年度については、これまでの基礎的情報の収集を中心に行ない、さらに新たなデータ作りの準備を行なった。

## 小児慢性疾患、運動指導・生活管理基準

小児慢性疾患を管理し、かつ患児のQOLを維持する上で医学的治療と相まって重要なのが患児の運動指導・生活管理である。これまでの医療では医学的治療にのみ重点が置かれ、運動指導・生活管理は比較的等閑視されてきた。また、慢性疾患

管理のためにQOLが犠牲にされてきたのも事実である。さらに、慢性疾患児童の運動指導・生活管理は患児毎に異なって当然であるが、それ以上に担当医師によってもまちまちである。

---

昭和大学附属豊洲病院小児科

Department of Pediatrics, Showa University Toyosu Hospital

そこで、小児の慢性疾患の運動指導・生活管理の基準を作成することは大きな意味を持つことになる。慢性疾患児童の運動指導・生活管理に携わる医師・看護婦を初めとし、園医・校医、幼稚園・学校の担任、養護教員、栄養士等、患児と接触をもつ広い範囲の人たちがこれを熟知し統一見解のもとにチームワークをもって対処しなくてはならない。

今回の研究では慢性疾患児童（幼稚園児・学童）の社会生活（幼稚園・学校）での管理を担当する園医・校医ならびに養護教員を対象とする運動指導・生活管理指針マニュアル作成を最大の目標としたい。

以上のことより、これまでに集積されている情報の収集整理、情報の欠落した分野に対する新たなデータの収集を行なっていかなければならない。

指針の概要は以下のようにする。

#### A. 総論

##### 1) 登校

##### 2) 校内授業

- ・教室の授業
- ・作業を要する授業（図画工作、技術）
- ・体育（水泳を含む）

##### 3) クラブ活動

- ・文化部
- ・運動部

##### 4) 校外授業

- ・バス見学
- ・遠足
- ・移動教室（林間学校、臨海学校）
- ・修学旅行

##### 5) 制服

##### 6) 学校内の環境

- ・植物栽培
- ・動物飼育
- ・掃除

##### 7) 給食

##### 8) 対症療法

- ・発熱
- ・嘔吐
- ・下痢
- ・その他

#### B.各論

各種慢性疾患につき「A.総論」で取り上げた項目につき実用的指針をまとめる。

##### 1) 未熟児であった児童

##### 2) 免疫不全症候群

##### 3) 栄養障害

- ・肥満
- ・高脂血症

##### 4) 呼吸器疾患

- ・気管支拡張症
- ・気管支ぜん息

・アトピー性皮膚炎

・アレルギー性鼻炎・結膜炎

#### 5) 循環器疾患

・先天性心疾患

・不整脈

・心不全

・高血圧

・起立性調節障害

#### 6) 消化器疾患

・胃十二指腸潰瘍

・潰瘍性大腸炎

・クローン病

・慢性肝炎

・肝硬変症

#### 7) 内分泌疾患

・小人症

・尿崩症

・甲状腺機能低下症

・甲状腺機能亢進症

・性早熟症

・先天性副腎過形成

#### 8) 血液疾患

・貧血

・特発性血小板減少症

・血友病

・白血病

・悪性腫瘍

#### 9) 腎疾患

・ネフローゼ

・慢性糸球体腎炎

・腎不全

#### 10) 膠原病

・全身性紅斑性狼瘡

・若年性関節リウマチ

・リウマチ熱

#### 11) 神経疾患・精神疾患

・てんかん

・熱性けいれん

・脳性麻痺

・精神遅滞

・学習障害

・言語障害

・自閉症

・過換気症候群

・遺尿症

#### 12) 筋疾患

・筋ジストロフィ

・重症筋無力症

#### 13) 眼疾患

・弱視

・色覚異常

#### 14) 耳疾患

・難聴

・滲出性中耳炎



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:

小児慢性疾患を管理する上で医学的治療と相まって運動指導・生活管理は重要で、いわば車の両輪の役割を果たしている。しかるに、これまでの治療では医学的治療のみに重点が置かれ、運動指導・生活管理は比較的等閑視されてきた感がつよい。そこで、小児慢性疾患の運動指導・生活管理指針を作成することは大きな意味を持つ。慢性疾患児童の運動指導・生活管理は医療に携わる医師・看護婦をはじめとし、園医・校医、幼稚園・学校の担任、養護教員、栄養士等患児と接触をもつ広い範囲の人たちが熟知している必要がある。この点から、これまでに集積された情報の収集整理、情報の欠落した疾患に対する新たなデータの作成を行ない、上述の慢性疾患児童と接触をもつ広範囲の人たち、とりわけ園医・校医および養護教員に対する指針を作成したい。本年度については、これまでの基礎的情報の収集を中心に行ない、さらに新たなデータ作りの準備を行なった。